

市民談話室

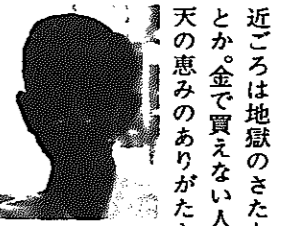


「市民談話室」は、市民の皆さんの意見交換の場です。テーマは自由。あなたの周りの最近の出来事、ふだん思っていること、市に対する意見など、堅く考えず気軽に投稿してください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所企画調整課広報広聴係です。



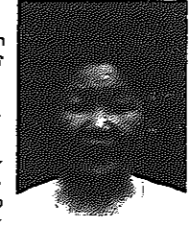
給水制限に思う
 豊かさの陰にある天の恵み
 平山ギンさん（下道海産業・72歳）

「生ある物すべて水を欲す」。関東地方の給水制限に私は思います。いつもどこかで水不足が報じられている空梅雨配の昨今、幸いにも本市は二つの大川に抱かれ、水のたいせつさをつい忘れてしまいがちです。大正から昭和の初めには、田に用水を引くために幾多の水騒動がありました。草刈りがまをもち、ほら貝を鳴らし、血を流すほどの水争い。洪水による災害。思い出してもぞっとします。その後、河川敷改良、分水、機械の設備など数々の歴史を残し、すばらしい田園都市になりました。懐かしい小川の水は蛇口に変わり、私たち市民は安泰に暮らせます。しかしながら、



近ごろは地獄のさたも金しいとか。金で買えない人の真心や、天の恵みのありがたさを忘れてはならないでしようか。やがて大白根市になり、全戸水洗トイレも速くはないでしょう。今から一人一人の工夫で水を向かれぬよう、そうきんをすすいだ水でも庭木にかけてあげたいと思うこのごろです。

本紙の「私の思い出昔のわが街」を興味深く読んでいます。昔の郷土の開拓、村落、街の開発、お寺の建立など、往時の出来事、懐かしい事柄については、当時の文書や記録も少なく、だんだん消え去っていきま。特に明治、大正、昭和と、近代化が急速に進展してきた激動の時代は変化も早く、少し前のことでもほとんど忘れ去られていきます。今のうちに町内の長老



お盆を前に祖先をしのぶ
 いまだに感じる加護に感謝
 金田イトさん（妻町・主婦・58歳）

「おまえさんちって、どこの出らね」と聞かれ、先代の商売のことを話すと「あつ、そうかね、そうかね。おれ、ようわかかってね」と言われ、私の知らなかった社会のことを、あれこれ教えてもらったりします。また、ほかに「おまえさんて、どこの生まれだね」と聞かれて、里の屋号ですぐ納得。意気投合してよもやま話に花が咲き、友好を新たにすることがよくあります。親の七光り」と言いますが



地球上にある真水は水全体の3%にすぎず、残りの97%は海水です。しかも、この真水の約70%は南極、グリーンランドなどの氷で、私たちが飲料用などに利用している河川や湖沼の水、地下水というのは、地球全体の水のたった0.8%なのです。私たちの命を支えるこの貴重な水資源を守っていくためには、1人1人がふだんから節水を心がけることがたいせつです。



環境のよい北部工業団地
 今後も優秀な会社の誘致を
 堀内吉四郎さん（小坂・機械修理業・59歳）

こんな年齢になっても、いまだにこのようにことで感激させられることが幾度もあります。そして、まだまだ世間に学ぶことの多さを感じます。もうすぐお盆が来ますが、先祖の徳をしのび、加護に感謝しながら平和に生きる喜びを感じていられることを、ありがたく思っています。



最後のボランティアと思い
 献体を決意
 牧野 実さん（中塩俵会社員・54歳）

「献体」という言葉は、私自身も今まであまり耳にしなかった言葉です。あるとき、ひよんなことから年刊誌を見ていたうちに、この文字に出会い、いろ

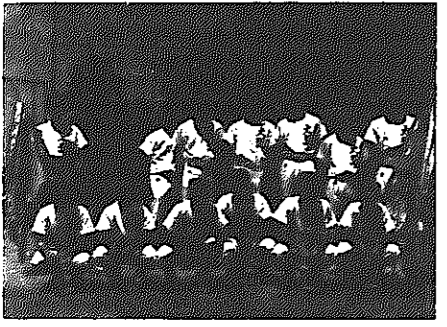
いと調べるようになりました。昔はなかなか献体について理解もなく、制度化されることもなく、ごく普通に取扱われていたようですが、だんだんと社

会が進歩し、人間も物事に対する考えが変わったように思われます。私たちは現在の文明社会において、自分本位の自己中心的な社会にしようと思死のよう思われま。また、マスコミはそれに追い打ちをかけるごとく、あおり立てているように思われま。私一人の偏見でしょうか。

こんな社会にあつて最後のボランティアと思ひ、私は献体を決意しました。そして、いっおうの手続きも終わって会員名簿を預かったときに、白根市民の人たちの名前の少なさに驚いたようなわけです。

私自身、葬式も墓もいらないうい打算的な考えは毛頭ありません。ふと気づいたことを記したようなわけです。誤解のないようお願いいたします。

グループ紹介⑬ 大鷲中学校野球部



総合体育大会・市内で優勝、郡市でも準優勝

メンバーは3年生14人、2年生10人、1年生8人の計32人です。同中の男子生徒は、陸上部が数人で、あとは野球部と剣道部に半々に分かれています。市内大会では毎年2位か3位でしたが、今年は5年ぶりに優勝しました。そして、郡市大会では、決勝戦で最初のちょっとしたミスが響き、新津5中に惜しくも敗れ準優勝。地区大会では、1回戦で3点差をひっくり返して逆転勝ちしましたが、残念ながら2回戦で敗れ、県大会出場を逃しました。59年から指導に当たっている藤井先生は「他校の生徒に比べると体格的に劣りますが、これまで守備固めを中心に練習を重ね、だいぶ上達しました」と話します。心配されていたエラーも少なく、ピッチャーの横山哲志さんも市内大会で四球がたった1個など、リズムある安定した投球内容でした。「走るのが好きな子で、だれも見なくても1人でトレーニングしています。それで制球力もついたのでしょう」と藤井先生。これから秋の新人戦に向け、3年生は後輩の指導に当たります。

キャプテンの声

土田秀幸さん
 (同中3年・東笠巻新田1)

最初は市内大会優勝を目標にしていたんですが、ピッチャーの出来がよかったし、守備の乱れもなく、スムーズに勝ち進むことができました。郡市大会の1回戦を勝って地区大会出場を決めたときはほんとうにうれしかった。口ばかり先に立ちますが、その分声がよく出る元気のいいチームです。



市民文芸

俳句
 秋の予備も盆持たわびし老父かな 渡辺 勲
 朝顔やひと朝をに新しき 大城 晋治
 花子の花に舞落る蝶二ツ三ツ 玉木 長吉
 川柳
 られハイハイとに藤を移して願くなら 今井 七郎
 夏枯れの畦に冷たい冷やっこ 岡村 清
 亡父の座に座る息子の子のぬい 織田 セツ
 みらのくへ大河ドラマが門を開け 後藤 マサノ
 夢に立て猫背の亡父の影陰見る 佐藤 トミノ
 マドンナが世界を泳がすレオグランド 佐藤 ヨキ
 ふる里が東京どなるパンダの仔 高橋 祐四郎
 ナイヤガラ移してみたい熱帯夜 竹石 達五
 老朽の凡夫に似合う丸豆 田中 茂子
 サンガラスの奥に邪心が秘めてある 田村 恒夫

立ち入り禁止ここから先は子の世界
 世界地図エイトで染めていく不幸
 世のうつり女の髪花盛り 中村 尚治
 過疎地の大豆畑のように音が無い 西条 ムラ
 エリートがピラソの前で立ち止まる 野内 隆太郎
 用事など多しの男のゴルフ酒 早川 真芳
 軍艦論しんがが木は枯らぬ 山崎 アミ
 おみくじの吉を小枝に縁を持つ 吉川 彰
 晩秋のピラソの上るのも新屋 吉川 大吾
 長瀬りて豆を種えんじ餅やせど 米野 光雄
 東流の下げに希望と不安